



全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年と中学校第3学年を対象に、児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握するとともに、それらを踏まえて児童生徒への学習指導の改善・充実に役立てることを目的として実施されています。教科に関する調査に加え、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査も実施されています。なお、この調査により測定できるのは、学力のうち、特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどをご理解ください。

【瑞穂市全体の結果から】

小・中学校とともに教科に関する調査において、小学校は3教科とも全国平均正答率より下回り、中学校は3教科とも全国平均正答率以上の結果となりました。

【小学校】

国語	全国平均正答率よりやや下回っています。
算数	全国平均正答率より下回っています。
理科	全国平均正答率よりやや下回っています。

【中学校】

国語	全国平均正答率をやや上回っています。
数学	全国平均正答率を上回っています。
理科	全国平均正答率を大きく上回っています。

教科に関する調査の状況（全国平均正答率と比べて）

【小学校】

- 国語 ○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題がよくできていました。【書く】
 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題に課題が見られました。【言語】
- 算数 ○はかりのメモリを読むことができるかどうかをみる問題がよくできていました。【測定】
 ●台形の意味や性質、角の大きさについて理解しているか、基本図形に分割することができる面積の求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題について課題が見られました。【図形】
- 理科 ○水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の水が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題がよくできていました。【粒子】
 ●発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題【生命】や、水の結露について温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題に課題が見られました。【地球】

【中学校】

- 国語 ○文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題がよくできていました。【言語】
 ●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題に課題が見られました。【読む】
- 数学 ○多角形の外角の意味を理解しているか、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる問題がよくできていました。【図形】
 ○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題がよくできていました。【数と式】
- 理科 ○実験で精製水を使う理由について、その疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる問題や、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる問題がよくできていました。【粒子】
 ○スケッチからわかる植物の特徴を基に、既習の植物のつくりに関する知識および技能を活用し、植物の構造について適切に表現できるかどうかをみる問題がよくできていました。【生命】

質問紙調査 ※①～⑥は、「あてはまる」「ややあてはまる」の回答を合算した割合を示しています。

- ① 「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに8割以上であるが、小学校では全国よりやや低く、中学校では全国より上回っています。
- ② 「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに9割以上であり、全国より上回っています。
- ③ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに9割弱であり、全国より大きく上回っています。
- ④ 「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を有効に活用するかを問う項目」については、全ての項目において小・中学校ともに全国を大きく上回っています。
- ⑤ 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできる」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに8割以上で、中学校は特に全国を大きく上回っています。
- ⑥ 「学級の児童生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに8割以上であり、全国を上回っています。

【今後の指導について】

小中学校ともに、評価の観点の中の、思考・判断・表現の観点は知識・技能の観点よりも高い傾向にある。各学校、授業において、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりできるように、学級の児童生徒と話し合う活動を位置付けています。自分の考えをアウトプットしながら考えを深めていけるように指導改善を行っている成果が表れています。

しかし、知識・技能の習得に課題が見られる部分があったため、授業の中で、判断の根拠を問い返したり、自分の考えを吟味したり、仲間の考えを解釈する場を設定したりするなどして課題解決を図ることで、知識・技能のさらなる定着を図ります。